



岩船魂

村上市立岩船小学校
学校だより No.4
令和7年7月1日
<http://www.iwafune.ne.jp/~iwax2-10>
E-mail: school@iwafune-e.murakami.ed.jp

めざす岩船っ子の姿（教育目標） 「深く考え 優しく思いやり たくましくやりぬく子」

大銀杏（オオイチョウ）にまつわるお話

校長 高橋 健

保護者の皆様もご存じのとおり、校門を過ぎて校舎前にある2本の大銀杏（オオイチョウ）が伐採されることになりました。

100年以上歴史のある大銀杏（オオイチョウ）のことを子どもたちに伝えられたらいいなと考えて、地域の方に相談したところ、ある方を紹介していただきました。

そのある方（Aさん）にインタビューしてきましたので、今回はそのことをお伝えしようと思います。



Aさんは岩船小学校の卒業生です。そのAさんのお父さんが生前、秋になると、「銀杏（ぎんなん）落ちてるか？ あの銀杏（イチョウ）の木は、俺たちが植えたんだ」と決まって言っていたといいます。その表情は、誇らしげであったそうです。

あるとき、Aさんはお父さんに聞いてみたそうです。

A「いつ頃植えたの？」

父「小学校1年生か2年生かるとき、記念樹として1本植えたんだ。」

A「でも、2本あるよ。」

父「1本は先に植えてあって、俺たちがもう1本植えたんだ。銀杏（イチョウ）は、オスとメス2本ないと、実がならないんだ。」

A「へえ。」

このことについて、Aさんは離れて暮らすお子さん（Bさん、Cさん）にも聞いてみたそうです。

B「毎年秋になると、おじいちゃんは『銀杏（ぎんなん）落ちてるか？』って聞いてきた。

『踏むとくさいんだよね』と言うと『銀杏（イチョウ）はオスとメスを自分たちで決めるんだ。そして、銀杏（ぎんなん）を落とすんだ』って教えてくれた。」

C「おじいちゃんが『俺たちが植えたんだ』って言ってたから、私たちは銀杏（イチョウ）の木のことを『おじいちゃんの木』だと思ってた。」

Aさんは、お父さんの話が本当のことなのか、今では確かめる術はないと話されました。

でも、親子や祖父とお孫さんの間で話題になる2本の大銀杏（オオイチョウ）は、**岩船小学校のシンボル**であり続けたことは間違いのないことだと思います。

Aさんからお話を伺いながら、2本の大銀杏を思い浮かべると大きさが違うことに気付きました。「最初に1本植わっていて、もう1本を俺たちが植えたんだ」というお話につながるなと思いました。

また、調べてみたところ、銀杏（イチョウ）の木にはメス株とオス株があり、実である銀杏（ぎんなん）ができるのはメス株だけだそうです。このことも、お父さんがもう1本植えたというお話につながります。

100年以上もの長い間、この岩船小学校の子どもたちを見守り続けてくれた大銀杏（オオイチョウ）には感謝の気持ちしかありません。本当にありがとう！

<岩船っ子のトピックス>

体力テスト

6月12日に、ファミリー班で協力しての体力テストが行われました。

立ち幅跳びや反復横跳びなど、様々な種目に取り組みました。



避難訓練・引き渡し訓練

6月17日に、地震と津波を想定した避難訓練と避難場所である岩船中学校での引き渡し訓練が行われました。

まず地震を想定した訓練で、机の下に身を隠し、その後グラウンドへの避難、津波警報発令を想定した中学校への2次避難、岩船中学校での保護者への引き渡し訓練の流れでした。

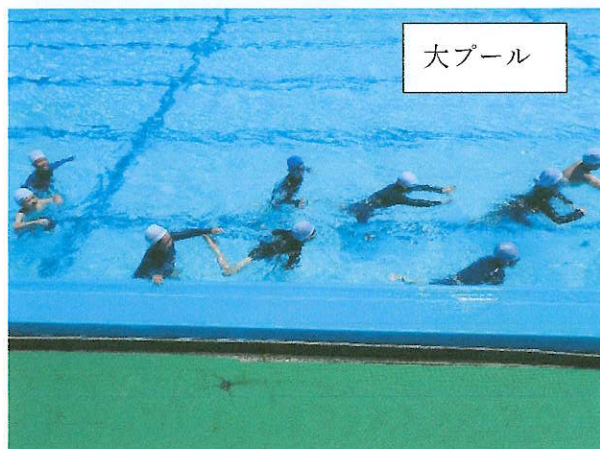
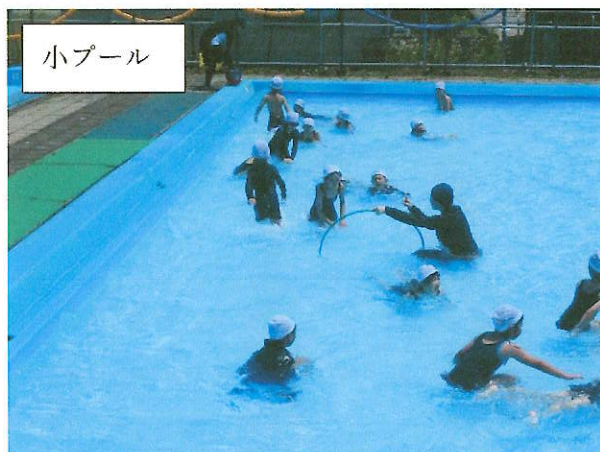
子どもたちは真剣に訓練に取り組み、保護者に引き渡された後はほっとした様子が見られました。

いざというときの動きを確認する良い機会となりました。



水泳授業スタート

全校児童がプール清掃をがんばり、ピカピカになったプールで、6月18日から水泳授業が始まりました。梅雨の時期にもかかわらず、天気が良く、暑い日が続きました。子どもたちは、元気に水泳授業に取り組んでいます。



いじめ見逃しゼロ集会

6月25日にいじめ見逃しゼロ集会が行われました。

6年生が3つのいじめの場面についての劇を動画撮影し、どこが良くないのか、どうすれば良かったのかについて、ファミリー班で一緒に考えました。

改めて、相手がいやな思いをしているのはいじめだということを確認できました。これからの行動に生かしてほしいです。



第1回学校運営協議会がありました



6月13日（金）、岩船荘別館を会場に岩船中学校区の学校運営協議会が行われました。初めに各校の校長から今年度の学校経営方針や教育活動についての説明を行いました。その後、意見交換を行いました。小学校の取組についての主な意見について紹介します。

- 学校便りが簡潔で分かりやすい。
- いじめ解決への取組は被害者の心情に寄り添って進めてほしい。また、同時に情報提供者も守ってほしい。
- 岩船小に限らず全国的に特別支援の在籍児童や不登校傾向の児童が増えている。小学校での取組はどうなっているのか。
⇒該当児童への支援はもちろんのこと、その保護者への支援も行っていく。また学校だけでは対応が難しい場合は、医療機関等外部機関との連携も図りながら支援を行っていく。
- 子どもたちに自己肯定感をもちたせることが大切である。そのためには、「運動会等の教育活動を通して達成感をもたせる」「地元に誇りをもたせる」「家庭や学校で自分は大切にされていると意識させる」ということを学校や地域が連携して取り組んでいくことが重要である。

協議会の後は、懇親会を行い親交を深めることができました。今後ともさらに学校運営に役立てていけるよう、委員の皆様、地域の皆様のご協力をお願いします。

夏休み（7月25日～8月28日）の予定

8月 8日（金）村上市岩船郡いじめ防止こどもサミット（荒川地区公民館）
学校諸経費振替日

11日（月）山の日
12日（火）～16日（土）学校閉庁日
28日（木）岩船保育園年長児来校

